

事業所の概要表

(令和 3年 6月 7日現在)

事業所名	グループホームしょうせきあいあい					
法人名	医療法人 北吉田診療所					
所在地	愛媛県松山市南吉田町1872-2					
電話番号	089-974-0041					
FAX番号	089-974-0041					
HPアドレス	http://kitayoshida-clinic.biz/annai.html					
開設年月日	2006年 3月 27日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (2) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能型居宅介護施設 ナーシングホームあいあい)					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 3 人 女性 15 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	5 名	要介護2	2 名
	要介護3	0 名	要介護4	6 名	要介護5	4 名
職員の勤続年数	1年未満	6 人	1~3年未満	8 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	0 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 3 人			
	その他 (看護師 4名)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	北吉田診療所					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 9 人) ←過去1年間の看取り人数					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 300,000 円	償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
食材料費	1日当たり	1,250 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	月額 12,870 円
		円
		円
		円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民 <input type="checkbox"/> 利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ()

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年7月30日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和3年1月29日 集計

家族アンケート	(回答数)	4	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870105784
事業所名	グループホームしょうせきあいあい
(ユニット名)	しょうちゃんユニット
記入者(管理者)	
氏名	中村 公亮
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 7 日

<p>【事業所理念】※事業所記入</p> <p>・利用者様とその家族が安心できるように、利用者様と家族の声を聞き、利用者様に寄り添った介護をします。 ・利用者様が自分らしく生活できるように、利用者様のできることを尊重して、その能力が維持できるような努めます。 ・笑顔と優しさと思いやりを忘れず、利用者様の立場に立って考え、丁寧な介護にあたります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>介護計画に基づいた記録の記入が出来るように、まずは介護計画書(ケアプラン)自体の書式の見直しを行い、その後経過記録等付随する記録用紙の見直しを行った。職員の入れ替わりや外国人技能実習生の受け入れなどによってユニットの体制が変わることもあり、利用者様に対するケアにおいて混乱が起きる可能性も示唆されたため、チェック表など必要となる書類の追加はできても、経過記録の書式自体に大幅な変更は加えることができなかった。職員が個々の介護計画を把握・理解し、介護計画書に基づいたケアを遂行するためのきっかけにも繋げることができている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>法人代表は、作業療法士の資格も有しており、歩くこと、座ることなど、利用者の身体機能の維持向上に向けたアドバイスがあり、介護計画に反映している。 保護犬、猫を複数匹飼育しており、撫でたり、散歩したりとふれ合う機会をつくっている。夏でも日陰になる場所に出て過ごせるよう支援している。玄関から出たところで、犬やカメを飼っており、利用者が外に出るきっかけにもなっている。 事業所内で毎月末に、火災・水害等、想定を変えて避難訓練を行っている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様との会話を通して、どのようなことを求めているかを聞くようにしている	○			介護計画の見直し時に、計画作成担当者が利用者や家族から聞き取り、介護計画表1表の利用者及び、家族の介護に対する意向欄に記入している。利用者の意向については空欄になっているケースがある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員間で話し合ったり、表情や体調(体温や血圧)など目に見えて分かることも検討材料にしている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時には職員が立ち合い、施設での生活の様子や聞いた会話の内容など本人に関わるエピソードを伝えるようにしている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の様子を観察し、気づいたことや気になったことはこまめに記録をすようしている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	まずは本人の言葉を聞くようにし、職員1人で判断せず複数の職員の意見を聞き取り入れるようにしている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	電話や来所時に家族から聞いたり、本人との会話を通してたりして情報を得ている				病院から医療依存度が高い状態で入居となるような利用者が多く、既往歴や日常生活動作についての情報は多いが、これまでの暮らしについての情報は少ない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人との会話を通し、生活リハビリ(洗濯物をたたむ等)に実際に取り組んでみてもらうことで現在の状態の把握に努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時の状況を記録に残すようにし、本人からも話を聞くようにしている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	本人の話を傾聴することで情報を得たり、他職員が残した記録を読んだり実際に話を聞いたりすることで要因を探るようにしている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人から生活についての希望や訴えを聞き、職員同士で情報共有を行うことで生活リズム等を把握するようにしている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人との会話等で得た情報と、職員間で出た複数の意見をもとに、本人の立場になって検討するようにしている				介護計画の見直しを行うカンファレンス時には、職員が日々のかかわりの中で知り得た情報をもとにして話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人・職員間での関わりを通して意見を集め、ケアプラン更新のカンファレンス時に議題として挙げ検討するようにしている				
		c	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階	△	把握の難しい重度の利用者様においては、課題の発見が難しいことがある				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意見は無理のない範囲で取り入れられるよう努力し、カンファレンス等を通して検討・反映するようにしている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族の意見を聞き、本人の身体状況なども考慮しながら介護計画を作成している	○			法人代表は、作業療法士の資格も有しており、歩くこと、座ることなど、利用者の身体機能の維持向上に向けたアドバイスがあり、計画に反映している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	身体状況を考慮しながら、可能な限りこれまでの生活を部分的にでも取り入れるようにしている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家庭状況の関係で協体制が得られない場合もあるが、無理のない範囲で得た情報を反映できるようにしている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間での情報交換や申し送りをしっかりと行い、ケアプランに変更があれば新しいものに必ず目を通し、場合によっては確認のサインをもらうようにしている				新しく介護計画を作成した際には、職員個々に内容を確認してサインするしくみをつくっている。全員が確認後にファイルに綴じるようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	実践したケアについて職員間で情報交換を行うようにしており、気づいたことがあればその都度記録に残すようにしている				経過記録(日々の介護記録)の情報の中から介護計画に関する内容を探る必要がある。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	その日にあったことは、本人の言葉や行動など具体例を挙げながら記録に残すようにしている				経過記録(日々の介護記録)の情報の中から探す必要があり、記入量は少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個々の経過記録に記入したり、申し送りノートを活用したりしている				カンファレンス時や日々のケアの中で話をしてケアに採り入れられているようだが、個別に記録はしていない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	本人の状態に変化がなくても一定期間で見直しを行い、計画期間中であっても変化があった場合はその都度検討し、必要に応じて変更するようになっている			◎	介護計画作成者が責任を持って時期を管理しており、3ヵ月ごとに見直しを行っている。		
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	日々のケアを通して気になること等があれば些細なことで職員同士で話し合うようにしている			×	3ヶ月に1回、計画作成担当者がモニタリングを行っているが月1回程度の現状確認は行っていない。		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の身体状態等に変化があった場合はその都度検討し、必要に応じて内容の変更や更新するようになっている				○	転倒などで身体状態に変化があるような場合は、計画を見直している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	勤務形態の関係で小規模な集まりになったとしても、必要に応じてミーティングやカンファレンスを行い意見交換や対策案の検討を行っている				○	定期的な職員会議は行っていないが、病状の変化や身体状態の変化がみられる利用者が多く、頻りに職員で話し合い検討している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	アットホームな雰囲気作りを意識し、進行役が話題を振ったり職員同士で意見を出し合えるような言葉掛けをしたりと発言の場を大切にしている						
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	シフト表を確認し、なるべく多くの職員が出席できるように日時を選んでいる						
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録や申し送りノートを活用し、場合によっては口頭での伝達を行い全員が把握できるようにしている					○	議事録を確認してサインするしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを作成し、情報共有ができる体制を作っている				○	利用者に関すること、その他のこととわけてノートをつくり、申し送っている。職員は、内容を確認してサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートは施設全体用・ユニット用に書き分け、情報の混乱を防いでいる	○				○	夜間緊急時の職員連絡網をつくっており、昨年11月には使用訓練を行った。
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人との会話を通し、職員間で検討することによって無理のない範囲で実現するようになっている						
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクリエーションや生活リハビリなど、無理強いせず本人と話をしながら取り組めるかどうか検討している				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人と話をしながら決めるようになり、答えにくい質問は言い換えたり「はいいいえ」で答えられるように工夫したりと本人の気持ちを引き出すような工夫をしている						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人と話をしたり、気分や体調面も考慮しながら他利用者の生活スタイルとの兼ね合いも見て無理なく対応している						
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員と関わる機会を多く設け、笑顔などの良い表情や活き活きとした行動が見られた時はその場面を写真に残すようになっている					○	保護犬、猫を複数匹飼育しており、撫でたり、散歩したりとふれ合う機会をつくっている。玄関前のスペースに利用者で手作りして夏祭りの雰囲気飾り付けをしていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	返答が困難でも出来るだけ話しかけるようになり、握手やハイタッチなどのボディランゲージを活かしたりすることによって些細な反応でもしっかり見るようになっている						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者様に対する日々の言葉掛けなどに気をつけると共に、内部研修を行うことにより学びや意識が薄れていかなないようにしている	○	◎	○	○	法人内研修時に身体拘束や虐待について勉強しており、その中で学んでいる。管理者やリーダーは、職員のケアで気になるような場面があれば、「私が代わりに」と声をかけるなどしている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	声の大きさなどに注意し、身体介護に関わる内容(おむつ交換など)は場合によっては他利用者から離れた場所に移動してから伝えるようにしている				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	本人に対する言葉掛けを気をつけたり、介助の際には必ず入り口のドアを閉め、他者から見えないようにするなどの配慮を行っている						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	ノックや声掛けをしながら入室するようにし、個人のプライベート空間であることを意識するようになっている					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	申し送りノートや記録ファイルの記入面を開けっ放しにしないなど、利用者様の目に触れないよう工夫をしている						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもありがとう教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活リハビリ(洗濯物をたたむ等)を通し、やっってもらったことに対して職員からも感謝の気持ちを伝えるようにしている						
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	共同での生活リハビリや日々の会話を通して、職員だけでなく利用者様同士の人間関係が築けている						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過剰な配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	◎	職員間で情報交換をしており、リビングなどでは利用者様同士の席の配置を工夫した場合によってはお互いの距離を空けたり、職員が間に座ったりトラブルを未然に防ぐよう努めている					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。散歩時に他利用者の車いすを押しにくるような利用者がいるようだ。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	本人だけでなく他利用者の不安要素にも察がらないう、必要に応じて居室に戻ってから話を聞くなど臨機応変な対応を心掛けている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族から話を聞くことで把握に努めている				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から話を聞くことで把握に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人の話を聞き可能な範囲で対応するように努めている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	新型コロナの関係で屋外で短時間の面会対応にはなるが、家族や知人等と会う機会は絶やさないようにしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	レクリエーションとして散歩や日光浴等、外気に触れる機会を多く作るようにしており、体調不良などでその日に戸外に出られなかった利用者様は別日に対応するようにし固定化も防いでいる	○	◎	○	家族が受診の付き添いをする時が外出の機会となっている。職員と犬の散歩に連れて行ったり、帽子をかぶって玄関先でお茶を飲むような機会をつくりたい。煙草を吸う利用者には、煙草がなくなったら職員が近くのコンビニまで付き添っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	新型コロナ流行前は近くの幼稚園の行事に参加していた。時々、散歩コースにあるパン屋で買い物をしている				夏でも日陰になる場所に出て過ごせるよう支援している。玄関から出たところで、犬やカメを飼っており、利用者が外に出るきっかけにもなっている。重度の利用者も玄関先に出て過ごす機会をつくっている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	利用者様の体調に合わせて無理のない範囲で散歩や日光浴などを行い外気に触れる機会を作ろうとしている			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	新型コロナ流行前は外食レクとして回転寿司店に行ったり、ドライブレクとして施設で飼育している犬を連れてドッグランに行ったりしている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員間で意見を出し合い情報共有することで、個々の利用者様の状態に合ったケアが行えるようにしている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリ(洗濯物をたたむ等)を通し、職員が全てやってしまうのではなく、出来ることは無理のない範囲で利用者様本人に取り組みでもらうことで身体機能の維持・向上に努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	まずは無理のない範囲でチャレンジしてもらおうとし、本人の気分の移り変わりや時間経過を見ながら職員が手伝うようにしている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人や家族から得た情報だけでなく、日々の関わりや会話などからも情報を得るようにし、把握に努めたうえで日常生活にも活かすようにしている				職員と、犬の散歩に行く利用者がいる。新聞広告でごみ箱をつくるのが上手な利用者がいる。季節に応じて壁面飾りや七夕飾りをつくったりしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	レベルが進んで難しいとされる行動や動作も、まずは一緒にやってみたり、他利用者様が取り組んでいるのを見る機会を作ったり気持ちだけでも参加できるようにしている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	新型コロナ流行前は地方祭や幼稚園行事などに参加していた。散歩コースで地域資源(川や神社など)に触れる機会を作ることで地域での楽しみを見つけてもらうようにしている				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	衣類の購入などは家族に協力を依頼し、本人の好みの柄や色、素材のものを季節に合わせて着てもらっている				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の個性を大切に、髪を結ぶなど思うようにできない利用者様には職員が手伝うことにより本人の好みのスタイルを保てるようにしている				
		c	自己決定がしやすい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を絞り込んだ質問に変えてみたり、仕草や行動を観察したりして気持ちを汲み取り本人の望むスタイルに近づけるようにしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その日の天気や気温に合わせた服装を意識し、外出の際は帽子やストールを着用することもある				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	他利用者に聞こえないように声をかけたり、場合によっては居室に居ながら直したりと本人のプライドを傷つけないような対応を心掛けている	○	◎	評価困難	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	新型コロナ流行前は家族の協力も得ながら本人の希望に沿ったお店に行くことができていた				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日の整容は欠かさず行い、訪室時に衣類の乱れなどがあればその都度直すようにしている			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	口から栄養を取ることを大切にし、少しでも食べてもらえるように個別に食事介助などを行っている				併設小規模多機能事業所の厨房の調理員が買い物や献立づくり、食材選び、調理を行っているため、利用者が食事の一連のプロセスにかかわる機会はほぼない。 時には、利用者が食器拭きを行う場面をつくっている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食事は併設施設の厨房で作っている。食器拭きなどの片付けを一緒に行うことがある。新型コロナウイルス流行前は食事やおやつと一緒に作るレクリエーションを不定期に取り入れていた			×		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事は併設施設の厨房で作っている。食器やテーブル拭きなど、無理強いはず無理のない範囲で取り組んでもらうことがある					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーに関しては入居時に必ず確認するようにし、好き嫌いについては食事の進み具合を観察したり本人や家族から話を聞いたりして情報を得るようにしている					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節のイベント(正月やクリスマス)時には、その時にあった献立を提供している			○		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	嚥下・咀嚼機能が低下した利用者様に対しては、全てをミキサー・刻み食にするのではなく、舌ですり潰せるものは可能な限りそのまま出すようにし少しでも残存機能を活かせる食事になるよう工夫している					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人専用の茶碗やコップを準備している利用者様もいる。手の大きさと動きなどに合わせ、箸の長さやスプーンのサイズも検討し使用している			評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	業務をしながらでも、出来るだけ多くのスタッフが一緒に食事が出来るよう努めている			評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	唾液の分泌を促す為に本人と会話をしたり、介助の際にメニュー名を伝えてから食べてもらったりと食事の雰囲気を大切にするようにしている		○	評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1人ひとりの食事をよく観察し、少ない方は高カロリーの栄養剤の処方主治医に依頼している。水分もしっかり摂取できるよう、食事以外でも適宜水分補給を促している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食量の少ない方は高カロリーの栄養剤やおやつ等を勧めている。水分量の少ない方は、本人の好きな飲料を代わりに出すようにしている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理担当で話し合いを行い献立を立てている。職員や利用者から出たリクエストも無理のない範囲で取り入れるようにしている。			○		管理者(施設長、代表者)が厨房調理員と話し合いを行っている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	厨房職員がほぼ毎日食材の買い出しに行き、新鮮な食材を調達・使用するようになっている。食材庫内も定期的に賞味期限などのチェックをし、衛生管理に努めている					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会を通して知識を得るとともに、実際に利用者様の介助をすることで必要性や重要性を理解するようにしている				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケアを通して状態を把握し、何か気づいたことがあればすぐに職員間で情報共有を行う。場合によっては専門医へ診察の依頼をすることもある			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月に1回歯科医または歯科衛生士より口腔ケア等について学ぶ機会を設け、そこで得た知識や情報を日々の支援に活かすようにしている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者様の状態等に合わせた、適宜手入れを行っている					
		e	利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨き等は職員が最初から全てやってしまうのではなく、可能な限り自分で行ってもらうようにし必要に応じて介助・見守りを行うようにしている			評価困難		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常発見時は速やかに主治医や家族に相談し、場合によっては専門医への受診を依頼するようにしている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	自分でトイレに行くことができる方は、排泄機能低下や失敗からの自信喪失を防ぐため定期的な声掛け等を通してトイレに行けるように支援している				ミーティング時に話し合い見直ししている。職員と看護職員の気づきをもとに検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	毎日の排便回数を記録に取り、最終排便日を確認するようにしている。また、日々の開胃などを通して本人の体調などの変化を汲み取り、職員間で情報共有し主治医にも報告するようにしている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個別に排泄の時間と回数を確認するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	本人の状態に合わせたものが使用できるよう、排泄の様子などを確認し適宜見直しをしている。	△			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	食事や水分量を見直したり、トイレにゆっくりと座る時間を確保したりと様々な取り組みを行うようにしている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	前回の排尿・排便時間を確認し、適宜声掛けを行いトイレ誘導を行うようにしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつ類を使用する時は、何故使用するのかを説明してから使用するようにしている。過度な使用には気を付けている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の身体状態に合わせて選択し、場合によっては昼夜での使い分けもしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事・水分量を確認し、摂取量の少ない方には適宜摂取を促している。場合によっては腹部のマッサージをしたり、温めたりして排便を促すようにしている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴日や時間帯は可能な範囲で対応し、入浴時間やお湯の温度等は本人に確認しながら支援をしている	◎		○	週に2回、午前中を基本に支援している。入浴の誘いを断るような利用者については、午後からも支援している。一般浴槽のため、またぐことが難しい利用者はシャワー浴となっている。さらに、入浴を楽しむという観点から支援に工夫はどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるような支援している。	○	本人の意見を取り入れつつ、事故や怪我等に気を付けて支援をしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗身・洗髪等、無理のない範囲で自分の力で取り組んでもらうようにし、難しい部分を職員が手伝うようにしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その日に実施不可であるようなら、清拭や更衣のみでも行えるよう声掛けをし、別日に改めて入浴時間が設けられるよう配慮している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	本人の体調に合わせて対応し、入浴中や終了後に少しでも変化があればすぐに看護師や主治医に報告するようにしている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	定期的な記録、申し送り等を通して個々のパターンを把握するようにしている				現在3名の利用者が睡眠導入剤を使用している。夜は安眠できるように、日中は活動して体を覚めさせておくよう気を付けている。20時半くらいからは電気を徐々に消していき、利用者が就寝時間と認識できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動(散歩や日光浴等)の時間を確保し、1日の生活リズムを整えることで夜間しっかり睡眠時間を取れるよう努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	1日の過ごし方を見直し、日中の活動時間を無理なく確保できるようにしている。必要に応じて主治医と薬の選択を相談するようにしている				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の気分や体調、生活リズムに合わせて個別に休息が取れるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族とも相談しながら、電話や手紙のやり取りが出来るようにしている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	必要に応じて手伝うようにしている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば、家族の協力も得ながら可能な限り対応している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人宛の手紙やハガキは、届いたらすぐに本人へ渡すようにしている。本人自らが手紙等をポストへ投函することが難しい場合は、職員が代わりに郵便局等へ向かうこともある				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族とも相談し、可能な限り協力体制が得られるようにしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買い物レク等を通じ、大切さや意味を理解している						
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望時には可能な限り対応できるようにしている						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	散歩を兼ねて、近所のパン屋さんやコンビニまで買い物に行くことがあった						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人や家族と相談しながら支援している						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要に応じて本人や家族と話し合うようにしている						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には事務所で管理としている。本人で管理を希望する場合は家族と話し合っルールを決めるようにしている						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況に応じたサービスを提供出来るよう、本人や家族とも相談しながら柔軟に対応するようにしている	○		×	現在は、特に行っていない。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関を示す看板を設置したり、鉢植えや花壇を整備したりして親しみやすい雰囲気作りを心掛けている	◎	○	○	道路から見えるように看板を付けている。玄関前は車が止められ、そのままの道に通り抜けできる。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそよような設えになっていないか等。)	○	施設という固定概念にとらわれず、家庭的な雰囲気をしている	○	○	○	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	適宜、換気や掃除を行うようにしている				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	適切な環境を整えるためにも、扇風機や暖房器具等季節に合ったものを使用し居心地の良い生活空間を作り出すようにしている				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	本人の気分や体調に合わせて居室やリビング等、希望する場所で過ごせるよう支援し、場合によっては席の配置なども工夫するようにしている						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	使用時は必ず扉を閉め、外からは見えないようにしている						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた家具等、居室には好きなものを持ち込んでもらい本人の居心地の良い空間作りができるようにしている	○			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレ等共同設備がどこにあるのか分かるよう、扉の横に手作りの簡易看板を設置している所もある				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	手拭きタオルと間違えないよう、洗面台拭きを利用者様の手の届かないところに置いていたり、掃除用具は目に入りづらい場所にそれぞれまとめたりと不安や混乱を少しでも防ぐように努めている						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞・広告等は共有スペースに置いており、好きな時に読めるようになっている						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	生活の中の危険回避のため、やむを得ず鍵をかけることが多いがそれらに関してのデメリットを理解しながら利用者様のケアにあたるようにしている	△	○	△	併設小規模多機能事業所と共通の玄関は、ナンバーロックを設置しており、解錠時は職員が操作している。ユニットの出入口には鍵をかけている。身体拘束についての法人内研修や新人研修時に鍵をかけることの弊害について勉強をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	必要性や状況を説明しながら施錠をするようにしている						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	ユニットの入口を出てすぐに階段があり、利用者様の転倒・転落防止のために基本的には施錠している。玄関についても、徘徊する利用者が1人で出てしまう可能性もあるため危険防止で鍵をかけている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時の聞き取りや病院等からの情報提供をしっかりと確認し、口頭や書面での申し送りを通じて把握に努めている						
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	少しの変化にも気付けるよう、利用者一人ひとりに注意深く見ようとしている。また、異常があればすぐに他スタッフや管理者等に報告し、記録にもしっかり残すようにしている						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも異常があればすぐに看護師へ伝え、そこから主治医へ報告しいつでも指示が受けられる体制を整えている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	本人・家族から希望があれば、状況に応じて希望する医療機関への受診も支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人・家族の希望に応じて、お互いが納得出来る適切な治療が受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族への連絡も行い、必要に応じて主治医からの詳しい説明も聞けるような体制を整えている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	必要な情報提供はしっかり行うようにしている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	なるべく早く退院し、施設での受け入れ・療養が出来るよう入院先との情報交換等をしっかり行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	母体が医療機関であり、情報交換はしっかりと行うようにしており異常時はすぐ対応できるようにしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	少しでも気づいたことがあればすぐに看護師へ伝えるようにし、異常の早期発見に努めている。母体の医療法人から医師が毎日往診に来ており、早期の治療にも繋げることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間看護師が在中しており、急変時には主治医にもすぐに連絡が出来るようにしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるように体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	朝は必ずバイタル測定をするようにし、それ以外の時間帯にも測定指示が出ている利用者様に関しては個別に対応しており、異常の早期発見・治療にも繋がるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	看護師が把握するようにし、必要に応じて用法などを介護職員にも伝え服薬後の変化もしっかり見るようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員同士で声かけをし、ダブルチェックをするようにしている。飲み終えたら、記録用紙への記入なども行い飲み忘れ等が無いよう気をつけている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬の調整があった場合は必要に応じて本人や職員に伝え、体調等何か変化があればすぐに主治医や看護師へ報告するようにしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後、異常があればすぐ主治医や看護師に報告するようにし記録にも残すようにしている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族へ状態説明を行うとともに、今後のケアや治療方針等を報告・相談している				看とりの時期と医師が判断した時には、医師と家族が話し合い、その結果をもとに看護職員が家族と話し合せて方針を共有している。さらに、家族アンケート結果を踏まえた取り組みに工夫してほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	主治医より家族へ状態説明を行い、今後の治療方針に沿ったケアを行っている	△			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の力量を考え、本人の状態も考慮しながらお互いが無理なく実践できるようなケアの提供を行うようにしている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	本人の状態を踏まえ、無理なくケアを行えるように家族へ説明するようにしている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	何かあればすぐに主治医に連絡をし、本人の状態に合わせた対応が出来るような体制づくりをしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族が相談しやすい環境づくりを意識し、職員と円満な関係性を築けるようにすることで心理的支援にも繋げるようにしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的な勉強会を開き、学ぶ機会を設けている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	定期的な勉強会に加え、感染症に対するマニュアルを作成することで体制を整えている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政からの連絡(メール等)などがあれば、勉強会の資料として活用することもある				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政からの連絡(メール等)などから情報を得ることがある。状況に応じ勉強会を開き、利用者様の体調管理にも細心の注意を払うようにしている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関やユニット入口には消毒液を設置している。職員・利用者問わず、うがい・手洗いもこまめにするように声かけを行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	来所時には普段の生活状況等を伝えるようにしており、本人の様子分かる写真も定期的に送付している				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 2ヶ月に一回、写真を印刷して送付している。本人のいい写真が撮れた時には、家族の来訪時に渡すことがある。たとえば、事業所からどのような報告があれば家族は安心か、家族に聞いてみてはどうだろうか。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新型コロナの関係で基本的には施設内への立ち入りを許可していないが、本人と会える機会は絶やさないよう面会は可能な限り対応できるようにしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	現在は新型コロナの関係で基本的には施設内への立ち入りを許可していない。レクリエーションの時間に面会に来られた際は、同席などを勧める声掛けを行うことがあった	△		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	本人の様子分かる写真を定期的に送るようにし、必要に応じて電話にて本人の状況を伝えることもある	○		△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	要望があればその都度報告を行うようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会や電話等を通して関わりを持ち、理解を深めていくことでより良い関係が築いていけるように支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	必要に応じて運営推進会議などで報告の機会を設け、その他の事柄に関しても都度報告できるように心掛けている	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	新型コロナの関係で家族同士が顔を合わせる機会は減っているが、以前は運営推進会議や面会などを通して交流ができていた				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人に合わせたケアを意識し、家族にも説明することでその人らしい生活が送れるよう心掛けている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	電話や面会等、家族と関わる機会を作ることによって気軽に相談できる体制を作っている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時は時間をかけ具体的な説明を行い、変更があった際もその都度報告するようにしている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	施設での看取りを希望する場合は多いが、退所時は必要に応じて情報提供も行うことでスムーズに退去先に移れるようにしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で示し説明を行うようにしている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	新型コロナの関係で機会が減っている部分はあるが、運営推進会議の文書開催の案内送付などを通して事業所の目的や役割の理解を図るようにしている			◎	犬の散歩などの時にはあいさつをしている。近くの人からは「散歩してたね」などと声をかけてもらうことがある。さらに、地域活動が少ないような時期であってもつながりを持ってやる工夫はないか話し合ってみてはどうだろうか。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	新型コロナの関係で地域行事の参加は少なくなったが、レクリエーションで散歩に出掛けた際には挨拶などを通してより良い関係を築けるように意識している			◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	レクリエーションで散歩に出掛けた際などの挨拶や声かけが増えたように思う				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	新型コロナの関係で建物内への立ち入りを控えてもらっているが、利用者様が庭などで過ごしている際に近くを通過して様子を見てくれている場合がある				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらったり、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩中や庭での日光浴中に挨拶をするようにしている				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	新型コロナの関係で機会が少なくなったが、行事等に一緒に参加してもらえたことがあった				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	散歩に出掛けた際には近くの川や公園、神社等を目的地にすることもあった				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	新型コロナの関係で機会が少なくなったが、近所のパン屋におやつ用のパンを買いに行くことがあった				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	新型コロナの関係で現在は文書開催となっているが、家族や地域住民等多くの人に文書を送付している	○		△	会議を文書開催している。活動報告書を約150名に送付している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	新型コロナの関係で現在は文書開催となっているが、利用状況や日々の活動報告は必ず行っている			△	併設の小規模多機能事業所と合同の書面会議で、それぞれに利用者状況、活動報告を行っている。外部評価実施後には、結果と目標達成計画を報告した。さらに、会議メンバーが状況をより具体的に分かるような報告の工夫に期待したい。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	新型コロナの関係で現在は文書開催となっているが、何か意見があれば次回の会議で報告をするようにしている			◎	×	意見をもらえるようお願いしているようだが、意見等は出ていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	新型コロナの関係で現在は文書開催となっており、会議自体の担当者は決めているが内容に応じて参加メンバーを増やすことがある			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	新型コロナの関係で現在は文書開催となることが増えている。議事録の保管はしているが外部への公表はしていない。					
IVより良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ユニット理念は職員全員が関わって作成するようにし、話し合う機会を設け見直すようにしている					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	分かりやすいようにユニットの入口に理念を掲示し、いつでも見られるようにしている	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	新型コロナの影響で機会は少なくなったが、他施設の運営推進会議や各種セミナーに参加することがあった					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勉強会や日々の指導を通して、職員一人ひとりのスキルアップに繋げている					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の賞与査定を行うことで意欲の向上に努めている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	新型コロナの影響で機会は少なくなったが、他施設の運営推進会議や事業所連絡会などに参加することがあった					
e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	話しやすい環境を整え、困ったことや気になることがあったら個別に声をかけるようにしている	◎	◎	○		法人にいつでも相談できるようになっている。休憩時間は、順番に取っている。外国人実習生が季節行事を経験できるように、事業所内で正月にはおせち料理を食べたり、七夕には笹飾りを飾ったりできるようにした。		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	新人職員には入社時に必ず虐待に関する勉強会に出席してもらうようにし、その他にも定期的に勉強会を開くことで周知徹底に努めている					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	勉強会やカンファレンスを通して、日々のケアを振り返り話し合うようにしている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的な勉強会で知識を得るとともに、職員同士でも声を掛け合うことで常に意識を高く持つようしており、困ったことがあれば代表者にすぐ報告・相談するようになっている			○	法人内研修、新人研修時に勉強をしている。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	報告・相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、お互いの意見を聞くことで疲労やストレスの緩和に繋げるようにしている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的な勉強会を開くことで正しく理解するようになっている					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的な勉強会やカンファレンスを通して話し合うようにしている					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	いきなり拘束自体を始めるのではなく、まずは見守り等最小限のことから始めている。家族様には電話や面会を通して説明をし、理解を図るようになっている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会等を通して理解・把握に努めている					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	本人の状態に合わせて説明を行い、本人に合った制度を利用できるよう支援している					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時は各種関係機関に相談することで本人の状態に合わせて適切な支援が行えるようになっている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	医師や看護師を交えた勉強会を行っている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	個人で外部の救命講習を受講した職員もいる。医師や看護師を交えた勉強会等を行い、訓練・指導を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	記入した事故報告書・ヒヤリハット報告書は各ユニットに配布し全職員が必ず目を通すようにしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	定期的なミーティングやカンファレンスを通して意見交換を行い、対策を考え、事故の防止に取り組むようにしている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応方法について検討している。職員1人で悩まず、何かあれば事業所全体で検討するようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要に応じて市への相談・報告をするようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	些細な意見でも対応するようにし、聞き取った意見は事業所全体で把握し解決策を共に考えられるようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	可能な限りで個別に聞き取るようにし、汲み取った内容を職員間で共有しサービス内容の改善に繋げるようにしている			△	意見等があれば言う人もいるが、聞くような機会は持っていない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	訪問・面会時や電話等を利用し、意見や要望を聞き取るようにしている	○		○	運営推進会議の書面会議時に意見を出すような機会はあまる。来訪時に聞くなどしている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	要望等があれば適宜情報提供を行うようにしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	お互いが直接会うことが難しい場合でも、電話等のツールを使用し意見や要望を言い合えるようにしている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員は日頃の気づきや提案を報告するように努め、利用者様本位のケアに繋げるようにしている			○	ミーティング時に聞いている。職員からの提案があれば、まずは試してみることをすすめ、その後で話し合っている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	可能な限り、年1回程度は行うようにしている				外部評価実施後には、結果と目標達成計画を報告した。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員の意見を聞き、勉強会の内容などに反映するようにしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	事業所全体で取り組もうと努めるようにはしている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議等を報告の場とし、意見を聞くようにはしている	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議等で報告を行うようにしている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアルを作成し共用部に掲示することでいつでも見られるようにしている。災害の種類に合わせて複数マニュアルを準備している。				事業所内で毎月末に、火災・水害等、想定を変えて避難訓練を行っている。さらに、地域等との協力・支援体制を確保できるような取り組みもすすめてほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練を定期的に行うようにし、夜間も連絡網を使用した訓練を職員間で行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災バッグを利用者様一人ひとりに用意してもらっている。非常食等の点検を定期的に行うようにしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防訓練を規定された回数より多く行い、可能な限り消防署職員と合同で行うようにしている。火災だけではなく地震や洪水など様々な災害を想定して行っている	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防訓練を規定された回数より多く行い、可能な限り消防署職員と共同で行うようにしている。火災だけではなく地震や洪水などさまざまな災害を想定して行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症理解のための啓蒙活動として劇を披露している。また、施設長自ら介護の講演会を複数回開催し、地域住民への情報提供の場としている				法人が相談にのっているが、事業所としては取り組んでいない。 特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	母体が医療法人のため、相談があれば情報提供を行っている。開催した介護の講演会での出席者から受けた相談にも施設長自ら答えている		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域のイベントには参加し交流していたが主催として、事業所の解放や活用はできていない(新型コロナの影響で職員以外の施設内への立ち入りを原則禁止としている)				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	現在では外国人技能実習生を4名受け入れ実習を行っており、新型コロナ流行前は学生の職場体験なども受け入れていた				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	新型コロナ流行前は他の事業所主催の地域イベントに利用者様と一緒に無理のない範囲で参加していたが協働での開催などには至っていない			x	